



令和5年4月13日

(お知らせ)

京都市文化市民局  
〔担当 元離宮二条城事務所〕  
TEL (075)841-0096

文化庁移転記念事業 「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開 令和5年度春期  
花の回廊<sup>かいろう</sup> ～ 〈黒書院〉<sup>くろしょいん</sup> 牡丹の間の障壁画～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、春期原画公開「花の回廊 ～ 〈黒書院〉 牡丹の間の障壁画～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、〈黒書院〉の東廊下にあたる牡丹の間を飾った牡丹と梅を描いた障壁画を公開します。

是非、この機会に二条城へお越しください。

#### 1 会期

令和5年4月20日（木）～6月18日（日）〔60日間〕

#### 2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

#### 3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館

（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

#### 4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

#### 5 公開作品

(1) 〈黒書院〉牡丹の間障壁画《牡丹図（ぼたんず）》（障壁画面数：12面）

《梅図（うめず）》（障壁画面数：10面）

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

#### 6 お問合せ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地  
TEL：(075)841-0096 FAX：(075)802-6181〕

## 花の回廊 ～ 〈黒書院〉 牡丹の間の障壁画 ～

二の丸御殿の牡丹の間は〈黒書院〉の東廊下にあたり、その北側の壁や西側の襖ふすまの《牡丹図》は、寛永3年（1626）の大改修時に制作されたものです。しかし、一連の《牡丹図》の中で壁に貼られた2面は、他の画面に比べて古い様式を示しており、筆者だけでなく描かれた時代も異なる可能性を残しています。徳川家康（1542～1616）が将軍になった慶長年間には、この《牡丹図》2面のように、雲や岩などを手前から奥に配置して奥行きを示す描き方が見られたので、未だ資料がほとんどない家康時代の御殿の障壁画だったのでは？と想像の翼を広げさせてくれます。

寛永3年の障壁画制作では、二の丸御殿の廊下すべてに花鳥草木が描かれていましたが、幕末までに牡丹の間の《牡丹図》のみを残して失われ、現在の御殿は、明治30年代に制作された障壁画が飾っています。

一方、東側の戸襖とぶすまは、江戸時代中期には障壁画が貼り付けられていなかったところ、明治19年（1886）に、元は御殿の別の部屋の襖絵であった《梅図》が改装されて貼り付けられました。この二年前の明治17年（1884）に二条城は皇室の離宮となることが決定し、その翌年から修理事業が始まりました。元来、《梅図》のうち紅梅は〈大広間〉の、白梅は〈遠侍〉の、それぞれ納戸なんどの入り口側の襖絵でした。〈大広間〉の納戸は四の間の西側の襖を開けたところにあります。〈大広間〉四の間の岩に止まる鷹たかが描かれている襖の裏面であった紅梅の画面には、鷹を描く下書きの線が透けて見えます。透けて見える鷹は、下書きを描き始めたものの不採用となり、その上から金箔を貼られて、紅梅図の一部になったと考えられます。

御殿の変遷へんせんを物語り、障壁画制作の現場を垣間見せる花の障壁画を間近からお楽しみください。



〈黒書院〉 牡丹の間障壁画《牡丹図》部分



〈黒書院〉 牡丹の間障壁画《牡丹図》部分